



### シリーズ「新型コロナウイルスに負けるな！」

## いのちのおはなし

= 日野原重明先生 =



「みなさんは、自分の命がどこにあるか分かりますか？」

2学期の始業式で、日野原重明先生の『いのちのおはなし』（講談社）という絵本を紹介しました。

日野原先生は、平成29年7月に105歳でお亡くなりになるまで、現役の内科医として多方面でご活躍されました。

著書もたくさんあり、テレビ番組にも数多く出演されていたので、ご存じの方も多いことでしょう。

日野原先生は、戦時中の東京大空襲をはじめ、地下鉄サリン事件でも先頭に立ち、たくさんの人々の命を救いました。

また、早くから予防医学に取り組み、「人間ドック」を先駆的に行い、成人病に代わる呼称として「習慣病」（後の「生活習慣病」）を提唱しました。

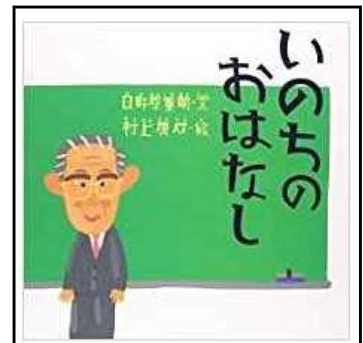
1970年に起きた「よど号ハイジャック事件」では、偶然飛行機に乗り合わせて人質になり、「死を覚悟した」と言います。

当時を振り返って日野原さんは、「与えられた自分の命を、社会のため、人のために使おう」と決意されたそうです。

日野原先生は、全国200以上の小学校をまわって「命の授業」を行いました。

その様子をまとめたのが『いのちのおはなし』です。

日野原先生は、言います。



いのちは、きみたちのもっている時間だといえますよ。これから、生きていく時間。それが、きみたちのいのちなんですよ。 ～『いのちのおはなし』（講談社）より～

全校の子どもたちに、絵本の紹介をした後、次のように話をしました。

今までの自分の時間の使い方を振り返ってみましょう。ゲームばかりして、命の無駄づかいをしていませんか？ 楽しいことや自分の好きなことばかりして、無駄な時間を過ごしていませんか？ いのちの時間の無駄づかいはやめましょう。

自分の時間を人のために使うことも大切です。例えば、お手伝いをしたり、困っている友達を助けてあげたりすることは、自分の時間を人のために使うことです。係や委員会の仕事は、学校のために自分の時間を使うことです。明るい挨拶をしたり、丁寧なことば遣いをする 것도、相手のことを考えて、自分の時間を使うことです。

自分のため、人のために使う時間を大切にできる人になってほしいと思います。

時間という命を大切にしようと、心の底から感じる事ができれば、自分は今何をすべきか、何をやめるべきかが、自ずとはっきりとしてくるはずですよ。

命を大切にすることというのは、自分を知ることであり、自分を大切にすることです。

子どもたちの命はまだ始まったばかりです。

可能性のある未来が子どもたちの目の前に大きく広がっています。

子どもたちには、新型コロナウイルスに負けずに、自分にとって価値ある時間の使い方を真剣に考え、実践できることを期待します。

2学期も感染症対策と子どもたちの健やかな学びの両立を目指し、保護者の皆様との連携を深め、一人一人に寄り添った支援に尽力いたします。

変わらぬご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

(校長 笠井 猛雄)